

データ活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発（第3回）

セキュアでオープンな公衆無線LANにおけるローミング利用者情報のプライバシーに配慮した地域間データ連携

研究概要：セキュアでオープンな公衆無線LANローミングの国際的なフレームワークであるOpenRoamingにおいて、訪問先のWi-Fiアクセスネットワーク提供者に仮名性を担保しつつ利用者情報を限定的に開示する仕組みを開発し、地域間で相互にデータ連携することを可能にする。利用者から同意を得て開示可能なデータを収集しプライバシーに配慮しつつ地域間で利用者情報を共有する仕組みを設計、複数の地域で相互にデータ連携する実証実験を実施して、観光振興などの地域課題への解決につながりうるかを実検証する。

研究開発項目1：プライバシーに配慮したIdPとANPとの間の利用者情報のデータ連携

1-1 IdPからANPへの利用者情報のRADIUSを介した安全な共有（東北大学）

- 地域間で連携するWi-Fiサービスアカウント発行者（IdP）とWi-Fiアクセスネットワーク提供者（ANP）の間で仮名性を担保しつつ利用者情報を安全に伝達する仕組みを設計する

1-2 プライバシーに配慮した利用者の事前同意の取得のためのユーザインタフェースの設計（国立情報学研究所）

- ローミング利用者情報の提供についてわかりやすく伝えて同意を求めるユーザインタフェースを設計・開発する
- 情報提供のインセンティブとしてローミング利用先の地域・施設で使えるクーポンなどのデータ配信機能を組み込む

研究開発項目2：ローミング利用者情報の地域間データ連携実証実験

2-1 ローミング利用者情報のデータ連携によるビジネスユースケースの策定（京都大学）

- ローミング利用者情報の地域間データ連携が平時や非常時にどのような地域課題の解決につながるかについてさまざまなユースケースの検討を行う

2-2 地域間データ連携実証実験の実施（Local24）

- 札幌市の商業施設（IKEUCHI GATE）や京都市の宿泊施設（嵐山渡月亭）などで実証実験を行う

【研究開発期間】 令和6年度から令和7年度まで

【受託者】 国立大学法人京都大学（代表研究者）、株式会社Local24、国立大学法人東北大学、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所

ローミング先
地域Wi-Fiサービス事業者

